

## 2014 年度前期 学科教育改善委員会 議事録（案）

1. 開催日時：平成 26 年 9 月 29 日（月）10:00-12:20 13:50-15:30
2. 開催場所：S2 棟 3F 会議室
3. 出席者：金利昭，沼尾達弥，呉智深，山田稔，原田隆郎，井上凉介，信岡尚道，村上哲，藤田昌史，熊澤貴之、平田輝満，車谷麻緒（順不同，敬称略）  
欠席者：桑原祐史、横木裕宗、一ノ瀬彩（順不同，敬称略）

## 1) 開会の挨拶（金）

教務 WG で用意した議事次第に沿って、諸注意がなされた。

この会議は授業の点検、教員間の意見交換ができる非常に貴重な機会である。

他学科の事例も鑑みて、教員間で特に共有すべき項目、今回は学生の自己学習に関して報告・議論することが確認された。

## 2) 前期学科各科目の点検と評価

1. 情報処理（原田）
  - 演習時間を使っているかどうかの確認ができるのか（山田）
  - 15 回分すべてではないが、メール等の提出状況で一定程度は確認できる（原田）
  - 1 年生の学習態度の傾向としては、自己学習時間は少ないかもしれない。
2. 都市システム工学序論（沼尾）
  - 自己学習時間がゼロがいるのはおかしい（レポート課題を出しているため）。学生に対してアンケートの回答時に注意した方がよいかもしれない。
  - 欠席、レポートの遅延などのため教育目標□-vi が未クリアが数名いる。Jabee の審査などとの関連は？
  - 序論の中ですべての分野をカバーできていないことへの対応を検討すべき。
3. 線形代数（湊：藤田）
  - 今年から交代された教員で、特に問題点は報告されていない。
4. 応用地質（天野：藤田）
  - 例年と特に変わらず、問題はないとのこと。
5. 構造力学 I（呉）
  - 厳しすぎることにに対して学生から文句が多いが、品質保証はできていると思う。
  - 学生の興味がないことが問題である。
6. 水理学 I（信岡）
  - 学生への生活指導が必要なときがある。
  - 学習時間は少ない。
  - 解答パターンが分かっているものは良いが、応用問題には弱い。
7. 土の力学 I（村上）

- 今年から交代し、授業資料を一から作成した。
  - 成績は大きく変化はない
  - 福島第一の事例なども紹介した。
  - 項目 C の Q1 は前任者の課題を参考として記載すべき。
8. 建設工学演習 I (村上)
- 講義の進捗とあわず、シラバスと変更したことがあった。
  - 教育目標「実際問題への応用力」の具体的な評価方法はどのようになっているか。将来的には当科目に「実際問題への応用力」は対応させないことも検討すべきかもしれない。全体の講義体系の中で各目標をどのように対応するかは新カリの中で検討する必要がある。
9. 土木計画論 (金)
- 成績は 1 ランク上がっている。
  - 色々と課題や予習を課しているが、学習時間は他の科目に比べて少ない。
  - 読解力が低い傾向がないか。
  - 土木計画論演習との連携ができていない、との意見が今年増えた。
10. 土木計画論演習 (山田)
- 数理手法を今年から教員交代し、昨年度と評価方法を変えた。
11. 応用数学 I (平澤：)
- 特に問題なし
12. 測量学 (桑原：欠席)
- 定期試験に出題する内容を具体的に指示し、試験のポイントをある程度明らかにしたのだが、試験勉強をしていないからであろうか、素点が取れず、不合格者が増加した。なお、答案は新学期に返却し、点数は確認してもらう予定。
13. 建設材料学 (沼尾)
- 授業でランダムに学生に質問するなどの工夫をしているは学習時間が少ない。
14. 地球環境工学 (三村：欠席)
- 未作成のため、研究グループとして対応
15. 都市システム情報処理 (横木：代理藤田)
- プログラムへの関心が低いことが心配。
  - 演習授業にしたらどうか。
  - 関心を持たせるための講義 (実際にどう役立つか) を 1 時間実施した (車谷)
16. 都市システム工学製図 I (熊澤、一ノ瀬)
- 昨年度意見を参考に難易度を下げた。
  - 学習時間が多いが、教えることが多く、学生も覚えること、作業時間が多く、苦勞していると思われる。
17. 数理統計 I (平田)
- 今年は板書で実施したが、板書が読みづらいとの意見も多く、後半注意したが、内容は分かりやすくなったと思われる。試験は昨年度より多少難しくしたが成績はさほど変化なし。
18. 都市システム工学実験 I (藤田)

- 授業の評価は高いが、負担が大きさと兼ね合いは要検討。
  - 実験中の私語が多いのが気になる。
19. 都市システム工学設計演習 I (金)
- 今年から1つの班のみ実際に地域活性化策を実践する実践班を構成した。
  - 実践班は大きな成果を挙げたが、他の班は大きな成果は挙げられなかった。他の班については学生の問題というよりはそれまでの授業で必要な知識を十分に講義していないため仕方がない部分があった。
  - 実践班は充実感を持ってはいたが負担は大きく、教員側の負担も大きいなど、今後実践的な演習を続ける際には課題も多い。
  - 班が違って評価方法は同様に行っているのか。
  - **項目 D を修正 (3 → 1)**
20. 地震及び振動工学 (井上)
- 非常に基礎的な問題でも最後まで白紙の学生がいる。補習などもしているが効果はない。
  - 来年度から試験問題を易しくせざるを得ない。
  - Jabe の最低品質保証スタイルでは上を伸ばすことはできない。別途、上を伸ばすための授業の工夫が必要。
21. 空間情報工学 (桑原)
- 補講を設定しようとする時期に受講者学生の予定を確認したが、予定を取ることができず、定期試験で確認したい内容を授業で説明し、定期試験に臨んだ。幸い、勉強をよくしてきたようで、成績はここ数年で最も高い部類であった。
22. 空間デザイン論 (山田)
- 特に問題なし
23. 鋼構造及び橋梁工学 (原田)
- 特に問題なし
24. 基礎・環境地盤工学 (小峯)
- 特に問題なし。
25. コンクリート工学 (沼尾)
- 特に問題なし
26. 海岸工学 (横木)
- 特に問題なし
27. 水環境学 (藤田)
- 例年受講生が少なかったが、事前の推奨案内により今年は増えた。
28. 数学解析Ⅱ (植木)
- 受講生が少ない。
29. 建築構造設計製図 (沼尾)
- 力学への理解が不十分。
30. 建築設備 (沼尾)
- 特に問題なし

### 31. 建設行政（沼尾）

- 今年から建築法規と分離して1単位にしている。
- 多くの学生に受講させたい内容だが、受講生が少ない。建築を志望する学生への受講推奨が他の学生の受講を減らしているかもしれない。
- 受講生が非常に少なく匿名性が確保できないので授業アンケートが実施していない。

### 32. 建設法規（熊澤）

- 受講生が少ないが、特に問題なし。

### 33. 建築製図（一ノ瀬：代理沼尾）

- 隔年授業で昨年度実施したのだが、昨年度の案内が不十分だったこともあり、今年度は特別に授業を実施した。

まとめ（金）：

本日提起された主な課題と検討事項は以下の通り。

- アンケートでの予習復習時間が正確に解答されていない（都市システム工学序論）
- 教育学習目標「実際問題への応用力」の扱い（建設工学演習Ⅰ）
- 授業内容と負担、満足度に関しての精査係（製図Ⅰ）
- 力学系の興味・理解が低い（複数）
- FDのやり方自体の再考

## 3) FD 研修会

### 1. 皆さんの研修会発言内容

- ・現在の学生は勉強時間が少ない。
- ・Totalの学習時間を確保するために教育することが重要。
- ・自主的に学生が学習するようになるためには何が重要か？
- ・やっていることを明確に示すために時間で示す必要がある。
- ・学習不足の人にやらせる方法を議論すればよいのでは。
- ・学習時間の担保はセメスタ単位で集計すればよい。
- ・学生に何をどれだけやらせるかは教員が指示し、その把握は補助的に学生に依頼する。
- ・授業中に解いた問題の数値を替えるレベルの課題を出せば学生はやってくる。
- ・教科書を如何に読ませるか、が重要である。
- ・選択科目はモチベーションを上げるように工夫する必要がある。
- ・学生アンケートの予習・復習時間の扱いについて、設問はこれで良いのだろうか？（要は1時間以上が最大の予習・復習時間であることはおかしいのでは？本来4時間ではないか）
- ・どういう手法で90分で学生のやる気をUPさせたかを示すべき。これを合算して表現すべき。
- ・出したレポートをきちんと確認し、把握する必要性。

- ・ 4年生に持ち越すことができる必修科目数を検討することで、2・4年生の間の科目配置に余裕を持たせることができるが如何でしょうか？
- ・ 情報処理は講義科目から演習科目に変えてみても好いのではないか（検討事項）

## 2. まとめ

- ・ Q1 に対するアンケート結果の解釈の仕方を学生に話す。学生に出すレポートは標準的な必要時間を示す。学生にはシラバスに計画時間を示す。
- ・ Q1 の学科目標値を当面 3.0 として教員で取り組む。
- ・ 10/10 までに議事録を学務に出す必要性。検討必要事項は領域長が学科会議に提案することにする。
- ・ 過剰な学習時間を使っている所は下げる努力をし、逆に少ない所は増やすようにする。

